

# オンラインインターンシップを行なう際のポイントと留意点

コロナ禍によりオンラインインターンシップが増えています。オンラインインターンシップには、対面とは違う特徴やメリットがあります。できることや特徴、実施のポイントと留意点を解説します。

成蹊大学客員教授

高橋 暁子

## オンラインインターンシップの概要とメリット

新型コロナウイルスの影響により、オンラインインターンシップを導入する企業が増えています。

オンラインインターンシップとは、オンラインで実施するインターンシップのことです。

企業側が学生に就業体験の場を用意することで、学生に企業や業界について知ってもらい、採用や就活のミスマッチをなくす目的で行なわれます。

後述するとおり、コロナ禍でも、多くの企業はよい学生を探るために、インターンシップをなくしてはいません。学生側も、参加の意向は高い傾向にあります。

そこで、感染防止対策を意識したオンラインインターンシップが広く受け入れられているのです。

オンラインインターンシップは、動画を使って事業内容を説明したり、WEB会議システムやチャットツールを使って学生に就業体験プログラムに参加してもらうなど、オンラインならではのやり方を取り入れて行なわれます。すべてオンラインで行なうのが

難しい場合は、事前にオンラインで課題を進めたいうえで対面でワークショップを行なうなど、オンラインと対面を組み合わせたハイブリッド型もあります。

オンラインインターンシップには、コロナ禍で感染防止対策となることはもちろん、学生側からも全国どこからでも気軽に参加でき、時間や交通費などをかけずに効率的に企業や業界の研究ができるメリットがあります。

つまり企業から見ても、これまでにインターンシップに参加しづらかった遠方の学生などにもアピールできるメリットがあるのです。同時に、会場などを用意しなくても済むため、採用コストを抑えることができる点も見逃せないでしょう。

以下、オンラインインターンシップでできることや特徴、企業が行なう際のポイントと留意点について考えていきます。

## オンラインインターンシップの実施状況

株式会社ヒューマネージが2020年7月に行なった調査によると、2022年卒向けのインター

図表1 オンラインインターンシップの実施状況

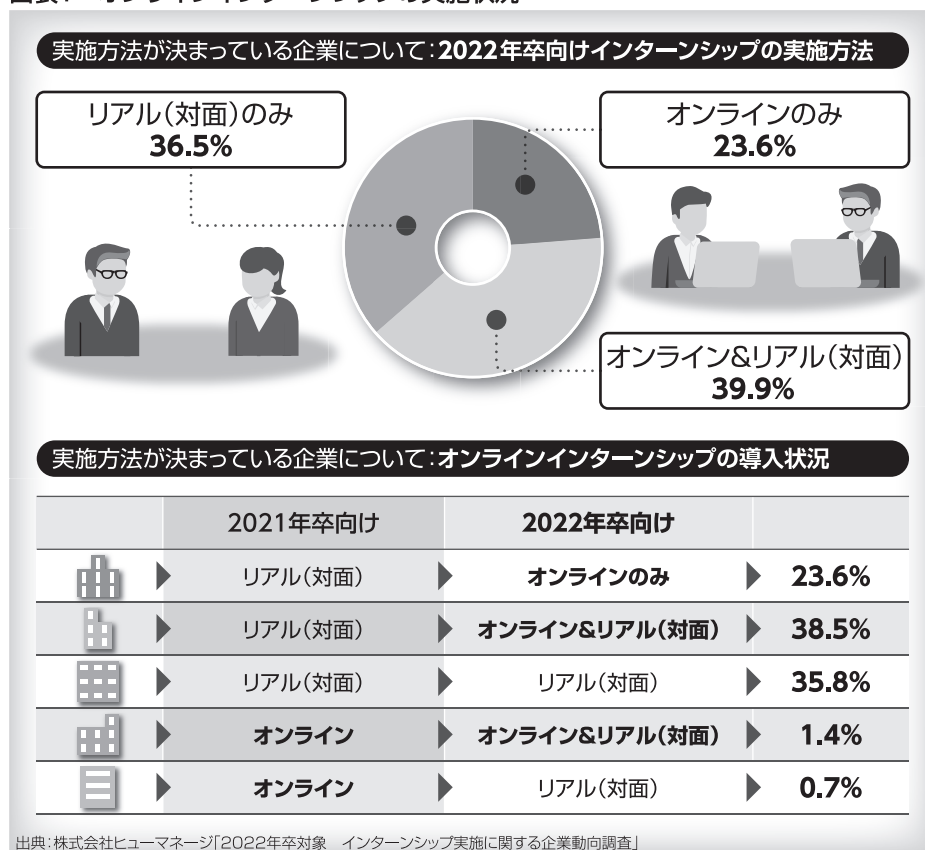
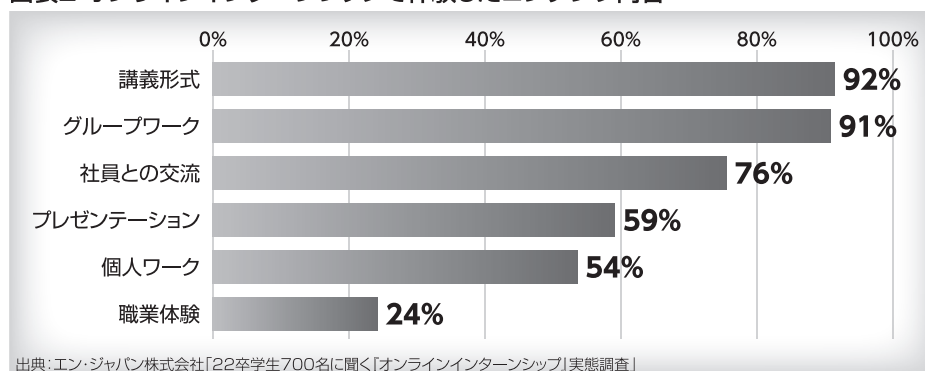


表1）。  
ンシップの実施方法について、オンラインのみの開催とした企業は23・6%、オンラインと対面のハイブリッド型とした企業は39・9%と、全体の6割以上の企業が何らかの形でオンラインインターンシップを取り入れていました（図表1）。

そのうち、一昨年は対面だったものの、昨年、オンラインインターンシップを導入すると回答した企業は、約62%に上りました。  
コロナ禍の後押しで、オンラインインターンシップが普及したことは間違いないと言ってよいでしょう。

図表2 オンラインインターンシップで体験したコンテンツ内容



オンラインインターンシップで  
何ができるか

では、オンラインインターンシップで何ができるのでしょうか。  
2022年度卒業予定の大学生・大学院生を対象としたエン・

ジャパンの「オンラインインターンシップ」実態調査（2020年9月）によると、オンラインインターンシップで体験したコンテンツ内容は、「講義形式」（92%）と「グループワーク」（91%）が多く、次いで「社員との交流」（76%）、「プレゼンテーション」（59%）、「個人ワーク」（54%）などとなりました（図表2）。

グループワークは、オンラインでも多く実施されています。

Zoomなどのオンライン会議システムを使い、ブレイクアウトルーム機能を使えばグループワークは簡単に実現できます。

書類作成指導なども、オンライン会議システムを利用すれば問題なくできるでしょう。

オンラインによる社内会議に学生を参加させたり、自社製品の製造過程を知ってもらうためにオンラインで工場見学を実施している会社もあります。

社員がカメラを持ち、社内を回って会社訪問を体験できるようにしたところもあったようです。このようなコンテンツは、社内の雰囲気をつかみやすくする効果も期待できます。

たとえば、サイバーエージェント

トは職種別のオンラインインターンシップを随時募集しています。

アプリケーション開発などのお題に対する取組みを通して、入社後の仕事のイメージができるようになっていきます。

京セラでは、技術コース・営業管理コースを対象に3日間からなるオンラインインターンシップを行なっています。

初日は同社の経営理念や事業について理解し、2日めは同社社員との交流を通して事業や働きがいを知ります。3日めは学生が興味を持った職種を体感するという流れとなっています。

## WEB形式と対面形式のメリット・デメリット

続いて、オンラインインターンシップを行なう際のポイントを見ていきましょう。

2022年3月卒業予定の大学生・大学院生を対象とした「マイナビ2022年卒大学生インターンシップ・就職活動準備実態調査(12月)」によると、インターンシップにおいて「事業内容・企業情報が理解できた」と回答した学生は、対面形式よりもWEB

(オンライン)形式のほうが多くなりました(図表3)。

WEB開催ならではの満足点は、「自宅からなど、リラックスできる環境で参加できた」という回答が全体の3割以上、「移動時間がないので授業やバイトの合間にも参加しやすかった」「遠方の企業のインターンシップにも参加しやすかった」という回答も2割以上ありました。

一方、対面形式では、「企業の社風や雰囲気理解できたかどうか」について「理解できた」が57・7%と、WEB形式に比べて11・8ポイント高くなりました(図表4)。また、WEB開催では、この項目が不満点の1位で2割が「理解できなかった」と回答しています(図表5)。

逆に対面開催ならではの不満点は、「企業への訪問にかかる交通費が負担だった」「授業やバイトとの時間調整が難しかった」「コロナウイルス感染の不安があった」という回答が上位3つを占めています(図表6)。

つまり、対面形式のほうが社風や雰囲気理解が伝わりやすいものの、WEB開催が導入されたことで、交通費と時間の負担を不満

に感じる学生が出てきているということです。

対面形式の場合は「対面形式だからその内容」という実感が持てるようなプログラムにすることがポイントとなるでしょう。

オンラインインターンシップは、双方向コミュニケーションによって満足度が高まる傾向にあります。たとえば、社員との交流など学生側から質問できる環境があると満足度が高くなるようです。

社員との交流は、企業の雰囲気や社風がわかるという効果にもつながります。学生同士が交流する機会も、学生には喜ばれる傾向にあります。

## オンラインインターンシップを行なう際のポイント

(1) ツールの使い方や通信状況を確認する

では、オンラインインターンシップを行なううえで、どのような点に注意すればよいでしょうか。

はじめに、自社で使えるオンラインインターンシップのツールを洗い出しておきましょう。

また、実施すると通信状況やツールの使い方などの問合せが増え

る傾向にあります。どのような問題が起きるかを事前に想定し、対策を施しておきましょう。

たとえば、適切な回線速度、どのような環境で参加すべきか、回線トラブルによって離脱した場合の戻り方などは事前に伝えておくとういでしょう。

(2) 情報漏えいに注意する

情報漏えいには注意し、企業外に漏れては困ることは話さないよう周知したり、守秘義務契約書にサインをしてもらうなどの対策をとっておくとういでしょう。

(3) SNSなどでアピールする

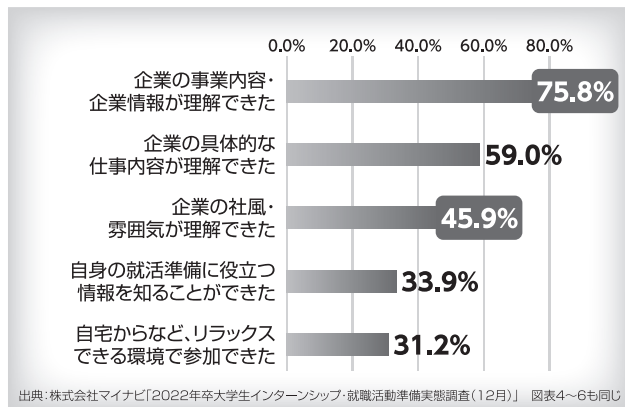
また、せっかく遠隔地の学生も参加可能となるなど、これまでよりも多くの学生に参加してもらえるので、SNSなどを使って多くの学生にアピールしましょう。

その際、学生が楽しんで参加しやすいようなプログラムづくりをして多くの学生を集めるよう工夫することが大切です。

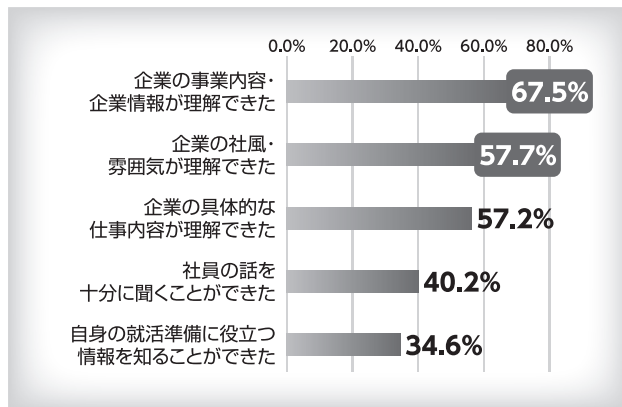
(4) 学生にメリットがあるプログラムにする

自社のアピールだけにとどまるのではなく、学生側に参加するメ

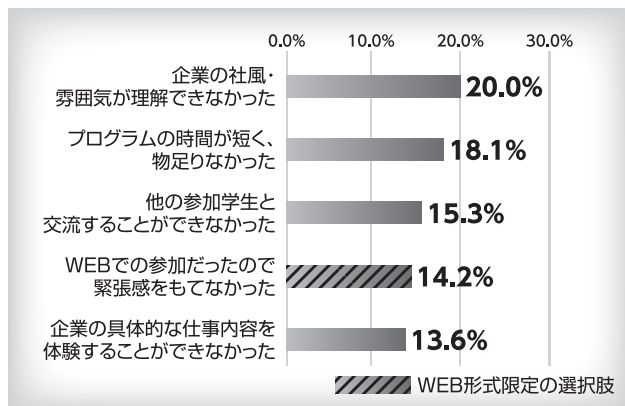
図表3 WEB開催のインターンシップについて  
満足した点(上位5項目)



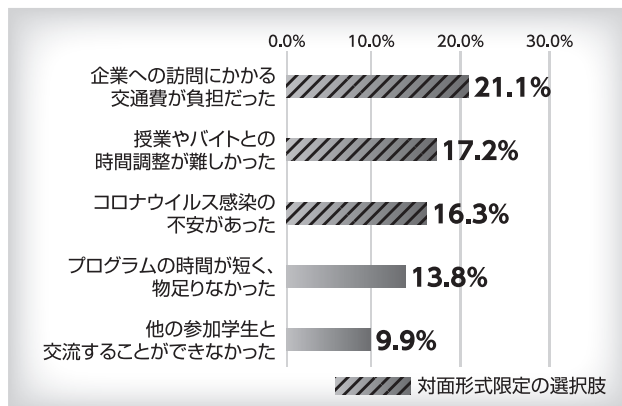
図表4 対面開催のインターンシップについて  
満足した点(上位5項目)



図表5 WEB開催のインターンシップについて  
不満だった点(上位5項目)



図表6 対面開催のインターンシップについて  
不満だった点(上位5項目)



たかはし あきこ 成蹊大学客員教授。SNSや情報リテラシー教育が専門。東京学芸大学卒業後、東京都で小学校教諭、WEBの編集者などを経て独立、現在に至る。

(5) コミュニケーションの機会を増やす  
また、オンラインでは対面よりも集中力が途切れやすいため、対面よりも短い時間で実施する必要があります。

対面での実施内容をそのままオンラインに流すのは難しいので、対面より伝わりづらくなることを前提に内容を見直すこと、フォローをこまめに行うことも大切です。

初めからその会社に就職することを決めて参加する学生ばかりではないので、業界に関して興味・関心を持てたり、理解が深まるプログラムにすることがおすすめです。

たとえば、自社のオンラインインターンシップに参加することで業界に関する知識が得られたり、業界の海外における動向や人気のサービス、技術などについて知ることができるといったメリットを用意するのもよいでしょう。

たとえば、自社のオンラインインターンシップに参加することで業界に関する知識が得られたり、業界の海外における動向や人気のサービス、技術などについて知ることができるといったメリットを用意するのもよいでしょう。

また、その点を補うような会社の雰囲気が伝わるコンテンツを用意することも効果的です。たとえば、社員のインタビューや普段の社内の様子を映像にして流すことなどもおすすめです。